

アスパラを市長がPR

8日午前10時30分、杉並区役所では、毎年恒例の「なよろアスパラまつり」に名寄市の加藤剛士市長が登場。自ら店頭立ち、地元の特産品アスパラのPRを行いました。また、加藤市長からは、もう一つの特産品のヒマワリ「グッド・スマイル」の鉢植えが近隣の保育園の園児たちにプレゼントされると、その花の名のとおり笑顔を見せていました。このアスパラまつりは、明日までですが売り切れ次第終了になりますので、午前中にお越しになることをお勧めします。

杉並区の交流自治体の一つである名寄市は、北海道北部の内陸に位置し、農業が基幹産業です。中でも、グリーンアスパラは、北海道一の収穫量を誇り、盆地特有の気候の寒暖差と太陽の光をいっぱい浴びたアスパラは、太くとても甘くてやわらかいと評判です。その名寄市の特産品アスパラの収穫期に合わせて「なよろアスパラまつり」を開催しています。まつりは、グリーンアスパラの味を知ってもらうのが目的で、L12～14本・L7～8本をそれぞれ500円で販売するとともに、区役所ロビーではもう一つの特産品のヒマワリの鉢植えや名寄市の大地と四季それぞれの魅力を知ってもらう写真パネルを展示しています。



午前10時30分、その「なよろアスパラまつり」に、加藤剛士名寄市長と田中良杉並区長が揃いの法被姿で登場。店頭立ち、名寄市の自慢のアスパラを手にとり、その美味しさを大きな声でPRすると、多くの買い物客が集まりました。加藤市長のお奨めの食べ方は、「グリルで焼き目を付けて、マヨネーズをかける。」だそうです。「簡単ですがアスパラのやわらかさと甘さ、そして香ばしさが最高で、お酒のつまみにもご飯のおかずにもいける」そうです。

また、名寄市にはおよそ60ヘクタール（東京ドーム13個分）の広さのヒマワリ畑があり、総本数は500万本以上となることから、「ヒマワリのまち」としても知られています。アスパラまつりでは、そのヒマワリの鉢植えが展示されています。30cmほどの茎の上に花を咲かせる「グッド・スマイル」という品種です。今日は、阿佐谷東保育園の園児20名ほどが区役所を訪れると、加藤市長から園児一人一人にヒマワリの鉢植えがプレゼントされました。すると、園児たちは、そのヒマワリの「グッド・スマイル」の名前のとおり、うれしそうな笑顔を見せていました。

